

なが ども さち こ
長富 幸子
「Atelier kalton」代表

05
-北部-



応募のきっかけは?

父親の病気をきっかけに、2017年5月から、多い時は月2回ペースで実家のある見島に戻り、家の農業の手伝いをしていました。また、この頃、岡山県地域おこし協力隊ネットワーク代表理事の藤井裕也さんのことを母から聞き、協力隊について調べてもいました。見島の今後を考え始めるようになっていたこともあり、外からあれこれ言うよりも、現地にいないとできないことがあると思い、Uターンすることを決め、地域づくりに興味があったので協力隊に応募しました。都会で何かをするよりも、何もなかったところで自分が考え、何かするほうが楽しそうと思いました。

隊員時代：イベント会場



10数年ぶりの見島の生活はどうでしたか?

お風呂をたいたり、自然を身近に感じられる生活は美しいと感じます。便利な世の中だからこそ失いたくない、魅力的に感じられる暮らしが自分に合っており、価値あるものだと思います。

着任してみて、想像と違っていたことはありましたか?

思っていた以上に、地域の人々が諦めモードだったことです。地域に「こういうことがやりたい」というものがあって、協力隊としてそれに向かって一緒にやっていき、やがては地域が自走していくというイメージを持っていました。「もう10年早かったらな」という言葉もよく聞きました。将来の展望がなく、島の未来が描けない状態でした。

隊員時代の思い出を教えてください

市内各所を巡り、そこで食材を分けていただきパエリアを作る「パエリア巡礼」で、岡本智之隊員(→P.14)と一緒に活動するようになり、島以外でも知り合いが増えていきました。

また、声をかけていただいた方と一緒に活動をさせていただく中で、チラシ作りをしたことがきっかけとなり、当時、協力隊だった吉田さん(山口県の地域おこし協力隊OB・OG活動紹介vol.2掲載)から声がかかるようになったことが、今のデザインの仕事などにつながっています。

現在、そしてこれからについて

見島と萩市内を行き来し、地域に育ててもらいながら仕事をしています。地域の変化には時間がかかるので、任期中の3年で何かをしようとは思っていませんでした。着任から5年後に変化が見えて、10年後に新しい未来が視界に入ればと思っていましたので、好きなことを楽しんで、長く続けられることをこれからもやっていきたいです。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

着任前に必ず現地に行ってみることをお勧めします。自分の人生の時間を使う場所なのかを考えて応募してください。そして、まずはきちんと話を聞くことです。「何者だったか」よりも、「今ここで何をしているか」だと思います。地域や行政などの環境のせいにせず、小さなことからコツコツとやりましょう。

隊員時代：
滞在型観光体験▶



なが ども さち こ
長富 幸子さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 萩市
| 活動期間 | 2018年1月～2020年12月
| 活動内容 | 観光交流事業・地域づくり活動

▶ 現在の仕事

「Atelier kalton」代表



隊員時代：パエリア巡礼



長富さんのあゆみ

- 2018.01 ○ 協力隊着任
- 2018.11 ○ チラシの作成開始
- 2018.12 ○ 滞在型観光体験プラン造成
- 2019.05 ○ 「パエリア巡礼」開始
- 2019.09 ○ 「Atelier kalton」開業
- 2020.03 ○ 冊子「萩 出汁の旅 from 萩パエリア巡礼」作成
- 2020.12 ○ 協力隊卒業